

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21 年 4 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401540
法人名	有限会社 北邦工藤建設工業
事業所名	グループホーム さらさの杜
所在地	函館市安浦町364番2 (電話) 0138-25-5800

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】 (21 年 3 月 16 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 17 年 6 月 16 日		
ユニット数	2 近隣	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円			
その他の経費(月額)	23,000 円			
敷金	有 (円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要 (3 月 16 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	60 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂口内科、函館渡辺病院、函館脳神経外科病院、川瀬耳鼻咽喉科、本間眼科、南茅部歯科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に函館市と合併した旧南茅部町と、市内を結ぶ新道の入り口近くの自然豊かな中に、グループホームさらさの杜がある。旧南茅部町は人口の7割にあたる人が、地元名産の昆布漁に携わっている。漁の多忙な時期には家族総出となるため、地元職員の勤務体制を調整するなどして、協力している。事業所の近くに市立南茅部病院があり、かかりつけ医として訪問診療に訪れ、利用者の健康管理や重度化についての方針を示してくれている。管理者は、毎月自宅を訪問して利用者の近況を知らせているので家族は安心である。職員は、理念に添ったケアを実践し、利用者は守られながらも自主性を尊重されて暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の改善課題である地域との交流は、近隣の高校生や中学生の社会体験学習を受け入れるなど改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、ホーム全体のケアを見直す機会であると考え、全員の職員が自己評価に取り組み、反省点や改善点を見出し、話し合っ、サービスの質の向上に活かしている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、自己評価や外部評価を議題にし、2ヶ月ごとに実施している。事業所の活動報告や利用者の日常の様子を報告し、町内会からは、行事の予定や参加と協力の依頼が話されている。出席者の家族は、行政の参加者に、質問や意見を活発にしており、事業所としてもそれらの意見や要望を聴いてサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者は、毎月利用者の自宅を訪問して、利用者の日々の様子や健康状態を報告し、金銭出納帳の確認をしてもらい、意見や苦情についても聴き、職員と状況確認や話し合いを重ねて、運営に反映させている。
	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣の町内会との境界に位置している事業所なので、2箇所の町内会に加入しており、夏祭りやボランティアの受け入れも盛んに行なっている。小学生が千羽鶴を折って訪れるなど地域との交流は密に行なわれている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域での生活を保持するための理念として、「豊かな心」「安心と安らぎの生活」「自主性の尊重」「喜びと生きがい」「地域とのふれあい」を柱に、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼時やミーティングなどで理念を共有している。新人の職員には、理念をプリントしたものを渡し、実践に向けて取り組む指導をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の高校生や中学校の生徒による社会体験学習を、年に6回程度受け入れている。町内会の夏祭りやボランティアが訪れたり、小学生の歌、お遊戯による訪問と千羽鶴を届けてくれるなど、地域との交流は盛んに行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は事業所全体で、日々のケアの振り返りと捉えて、職員全員で取り組み、ユニット会議の中で話し合い、反省点や改善点を見出し改善を活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに実施している運営推進会議は、自己評価や外部評価を議題とし、事業所の活動などを報告している。行政からの出席者に、参加した家族は積極的に質問や意見をし、それらを参考に具体的な改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の生活支援の担当者に、相談や情報を提供したり意見交換を行なっている。ケースワーカーが毎月訪問するなど、行政との連携を常にとり、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は毎月、利用者の自宅を訪問して利用者の近況や健康状態、金銭出納簿の確認などをしてもらい、職員の異動のある時も同時に知らせている。遠方の家族には、電話で報告するなど個々にあわせた報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に家族には、意見や苦情についての説明をしているが、管理者が自宅訪問した際にも、状況の確認と、話し合いを重ねて、ユニット会議の中で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員ひとりひとりがケアのプロであるということを意識し、笑顔での挨拶を徹底し、利用者の心を開かせて、馴染みの関係を大切にしよう取り組んでいる。職員と忘年会、新年会などで親睦を深めるなど離職を防ぐ配慮をしている。やむを得ず代わる場合は、十分な期間を取っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	函館市の郊外にある事業所なので、車は相乗りで市内の研修会に参加している。母体組織の勉強会は、新人研修を含め地域の福祉施設と合同で医師や薬剤師を招いて実施している。研修内容は職員会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や、地域の福祉施設、ケアマネージャー会議などで同業者との交流があり、情報の収集や意見交換をして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問を繰り返したり、事業所を見学してもらうなど、利用者が安心してサービスを利用できるように取り組んでいる。病院からの入居者には、家族に、2週間程訪問を控えてもらい様子を電話で知らせている。職員は笑顔で声かけをして雰囲気に馴染めるような対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「怒」は出さないことを心がけ、常に利用者に共感し、同調し、日々のケアに取り組んでいる。利用者からは、山菜の採り方や調理の仕方を教わったり、洗濯物のたたみ方などを教わることもあり、職員は感謝の言葉を伝え、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、かかわりの中で、利用者の言葉や表情から意向をくみ取り、把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族から情報を得て、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	同居の家族や利用者の兄弟、子どもからも生活歴を聴き、得た情報と、職員が申し送りやミーティングで気づいたことをカンファレンス会議で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期は3ヶ月ごとに、長期は6ヶ月ごとの見直しであるが、退院後などで状態に変化が見られる時は家族と相談して、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	書類の申請代行、通院支援、遠方の家族に宿泊支援、など家族の状況に応じて、要望がある場合は臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望で、かかりつけ医を継続的に受診できるが、事業所が遠方のため、市立南茅部病院に変更することが多いが、かかりつけ医と協力医は情報を共有し、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の時に、重度化についての指針を家族に説明し確認をとっている。市立南茅部病院が理解と協力を示してくれ、地域の福祉施設と合同で、重度化や看取りについての勉強会を実施しており、全員の職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約の時に、家族には個人情報について説明している。ボランティアが訪問の時も、守秘義務について説明し理解をしてもらっている。職員は、プライバシーを損ねることなく対応し、個人の記録は事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の時間割は作成していないが、昼食時間はある程度決めている。夜型の利用者は、11時起床で在宅当時のペースで暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の中に入り、食事介助しながら楽しく食事をしている。利用者の出来ることを見極め、調理や後片付けを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は、全介助の利用者のために、リフターが設置してある。午後からは毎日入浴ができ、職員は皮膚の状態や、痛みがないかなどを確認し、申し送りで報告をしている。入浴を拒否する利用者は、清拭に切り替えて強制的な支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の周辺は山菜が豊富にあり、利用者は採るのを楽しみにしており、食材として活用している。ユニット間を行き来して仲間と会話をしたり、音楽を聴くなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所近くの散歩や、花火大会、お花見など、遠方にドライブに出かけている。外出が困難な利用者は、日向ぼっこをして、出来る限り戸外に出で外気に触れるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠をしていなが、夜間は防犯のために鍵をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で、年2回防災訓練と、オンラインシステムの作動確認と点検を実施しているが、地域住民の協力を得られるように働きかけるには至っていない。	○	地域の消防団との交流があるので、消防署と協議のうえ、防災訓練の参加と協力を得られることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は、1日1,000ml～1,500mlを目安に確保し記録をとっている。医師の訪問診療の時に、病気や体調にあわせた食事量や栄養のバランス、嚥下状態が低下している利用者には、きざみ食の導入などの指導を受けて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に4畳半の畳の小上がりがあり、利用者が使用する日用品があって家庭的な雰囲気である。バリアフリーが完備している共有空間は、広くて、明るく、不快な音や光がなく清潔であり、居心地よく過ごせるように工夫してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談して、在宅当時の調度品や日用品が持ち込まれ、家族の写真や若いころの写真を飾るなど、居心地よく過ごせるように工夫してある。		

※  は、重点項目。